

**くすりの適正使用協議会**  
**「第3回 くすり川柳コンテスト」入賞作品決定！**

**子供部門： 最優秀賞 「兄ちゃんの薬を私に飲ませるな」**  
**優秀賞 「兄弟でもわけあいつこはしちゃだめよ」**  
**一般部門： 最優秀賞 「飲めば効く いえいえ正しく 飲めば効く」**  
**優秀賞 「けちじゃない 自分の薬は 自分の分」**

くすりの適正使用協議会（会長：大橋勇郎）は、薬を正しく使うことの大切さの普及・啓発を目的とし、「第3回 くすり川柳コンテスト」を実施しました。

全国の小学生以上の方々を対象に、「薬の正しい使い方」をテーマに川柳を募集したところ、5,406句（子供部門：155句／一般部門：5,251句）の作品が寄せられました。1次選考、最終選考を経て、入賞作品10句を選定しました。

（募集期間 2011年10月17日～11月30日）

身近な携帯電話やスマートフォン機能を活用した服用管理、旅行や災害時における薬手帳の携帯、子供や孫が服用時間を管理する様子、自己判断で他人の薬を分け合わないなど、日常生活における様々な視点から薬の適正使用を詠った川柳が寄せられました。

特別審査員として、各部門の最優秀賞及び優秀賞を選定したコピーライターの仲畑貴志氏は、応募作品の傾向について次のように述べています。

『テーマは「薬の正しい使い方」。寄せられた句を見ると、周知度は比較的高いと思われます。とくに子供たちの表現を見ると、よく理解していることに驚かされました。もともと、句を作るために、今回学んだ効果であるとも言えますから、「薬の適正使用」の促進は、一方的に情報を流すだけではなく、受け手がその情報を活用（表現）することで、より深い浸透につながると思われます。』

なお、今回の入賞作品はホームページ（[http://www.rad-ar.or.jp/02/07\\_event/senryu/](http://www.rad-ar.or.jp/02/07_event/senryu/)）でもご覧いただけます。

くすりの適正使用協議会では、「くすり川柳」に詠われた、日常生活における人々の薬との接し方や想いを参考にしながら、今後も様々な形で、「薬の正しい使い方」の啓発活動を行ってまいります。

※このニュースリリースは、重工業研究会、本町記者会、厚生労働記者会、厚生日比谷クラブ、文部科学記者会に配布しております。

---

**【本件のお問合せ先】**

くすりの適正使用協議会  
広報委員長 梅田賢一 事務局長 松田偉太郎

（株式会社ジェイ・ピーアール内：山田）

TEL/03-3403-1745 FAX/03-3403-1753 E-mail:healthcare@k-jpr.com

---

## － 入 賞 作 品 －

### 【子供部門】

**最優秀賞：** 「兄ちゃんの 薬を私に 飲ませるな」 新潟県 <sup>ひらたちひろ</sup> 平田千紘さん (9歳)

特別審査員講評

大人の匂だと「家族でも」となるところです。何かにつけて先に行く、おにいちゃんへの意識が潜んでいるところが可愛い作品です。

**優秀賞：** 「兄弟でも わけあっこは しちゃだめよ」 神奈川県 <sup>はしもとまな</sup> 橋本真菜さん (6歳)

特別審査員講評

なんでも分け合って暮らす、良き生活感が出ています。いつもは仲良しで、わかちあう兄弟でも薬だけはいけませんね。

**佳作賞：** 「夜はこれ ぼくはじいじの くすり番」 岐阜県 <sup>おおくまそうへい</sup> 大熊蒼平さん (8歳)  
「飲むときは ジュースで飲まず お水でね」 大阪府 <sup>にしほやしほるな</sup> 西林遥奈さん (14歳)  
「飲み忘れ 昼にまとめちゃ ダメですよ」 宮城県 <sup>すとう</sup> 須藤ゆりのさん (10歳)

### 【一般部門】

**最優秀賞：** 「飲めば効く いえいえ正しく 飲めば効く」 埼玉県 <sup>あらいたつや</sup> 荒井達也さん (41歳)

特別審査員講評

「飲めば効く」という言葉を「いえいえ正しく」でつないだシンプルな構成が秀逸。  
「飲めば効く」という思い込みに警鐘を鳴らす句意にふさわしい姿です。

**優秀賞：** 「けちじゃない 自分の薬は 自分の分」 神奈川県 <sup>たにがわ</sup> 谷川ミヤ子さん (73歳)

特別審査員講評

「いいじゃない、一つぐらい、」と言われても、薬はあげないのがその人のため。  
「けち」というひと言が句の強度をうまく上げています。

**佳作賞：** 「家族でも 分かちあえない 処方薬」 神奈川県 <sup>みなかみみちこ</sup> 水上美智子さん (58歳)  
「薬には もったいないは 禁止です」 大阪府 <sup>みやけまゆ</sup> 三宅麻由さん (23歳)  
「善意でも ダメよ薬の おすそ分け」 神奈川県 <sup>うめやま</sup> 梅山すみ江さん (54歳)

## ◆ 特別審査員プロフィール

コピーライター 仲畑貴志 (なかはた たかし) 氏

1947年、京都市生まれ。コピーライター。カンヌ国際広告映画祭金賞、東京ADC賞など多数受賞。東京コピーライターズクラブ会長であり、日本広告界を代表するコピーライター。代表作は、「おしりだって、洗ってほしい」(TOTO)、「目の付けどころが、シャープでしょ」(シャープ)、「ココロも満タンに」(コスモ石油)、「反省だけなら猿でもできる。」(チオビタドリンク)など。新聞社の人気連載「仲畑流万能川柳」では選者を務める。

## ◆ 第3回 くすり川柳コンテスト概要

- 目的: 薬を正しく使うことの大切さの普及・啓発を推進すること
- テーマ: テーマは「薬の正しい使い方」です。日常生活における「薬の正しい使い方」について、5・7・5の川柳にして投稿いただきました。
- 応募条件: 全国の小学生以上の方  
・子供部門(中学生以下) ・一般部門(高校生以上)
- 応募期間: 2011年10月17日～2011年11月30日
- 総応募数: ・子供部門:155句 ・一般部門:5,251句
- 選考方法: 選考委員(コピーライター 仲畑貴志氏、くすりの適正使用協議会)による審査
- その他:
  - ・入賞作品は、くすりの適正使用協議会ホームページに掲載。
  - ・賞品:各部門より、最優秀賞1名・金1万円、優秀賞1名・金5千円、佳作賞3名・金3千円を謹呈。

## ◆ くすりの適正使用協議会について

くすりの適正使用協議会は、「医薬品の本来の姿を社会に提示して、医薬品の正しい用い方を促進し、患者さんの治療や、QOLに貢献する」を理念とし、1989年、研究開発指向型製薬企業11社により設立されました(現在会員数20社、個人会員2名)。設立当初より、「医薬品のベネフィットとリスクを科学的、客観的に評価、検証する手法である薬剤疫学の紹介、啓発」及び、「医薬品の適正使用に資する医療担当者と患者さんのコミュニケーションの促進」を2大事業として活動しています。近年では、基本的な医薬品情報を若年者が早い時期に「くすり教育」を学ぶことが、将来、医薬品の適正使用に役立つと考え、主として中学生を対象に「くすり教育」の普及活動を指導者に向けて展開しています。

くすりの適正使用協議会ホームページ : <http://www.rad-ar.or.jp/>

くすり教育ホームページ : <http://www.rad-are.com/>

### <会員企業>

アステラス製薬株式会社/アストラゼネカ株式会社/エーザイ株式会社/MSD株式会社/大塚製薬株式会社/キッセイ薬品工業株式会社/協和発酵キリン株式会社/興和株式会社/サノフィ・アベンティス株式会社/塩野義製薬株式会社/大正製薬株式会社/第一三共株式会社/大日本住友製薬株式会社/武田薬品工業株式会社/田辺三菱製薬株式会社/中外製薬株式会社/日本新薬株式会社/ノバルティスファーマ株式会社/ノボ ノルディスク ファーマ株式会社/Meiji Seika ファルマ株式会社  
以上20社(五十音順)